

◆日本共産党は今年創立104年。暮らし・平和・人権 国民のためにブレずにはたります。

休日当番病・医院

6月7日(日)

- ◆内科 夜間・休日急病センター 旭町 32-0099
- ◆外科 苦小牧消化器外科 北栄町 51-6655
- ◆歯科 大原歯科医院 しらかば町 74-0830

療時間：内科＝9時～翌朝7時、外科＝9時～17時、歯科＝9時～12時。本紙は毎週火曜日に編集のため、その後に休日当番医が変更になってもお知らせすることはできません。ご利用される際には、あらかじめ電話でお確かめください。

法律相談

親身な相談で定評

6月25日(木)
齋藤 耕 弁護士

(定員になり次第締め切ります)
日本共産党苦小牧地区委員会
苦小牧市見山町2-2-6 申込56-5002

しんぶん赤旗読者のための

日本共産党

民主苦小牧

発行 日本共産党苦小牧地区委員会

苦小牧市見山町2丁目2番6号 電話56-5002 fax 56-5086
日本共産党のホームページ <http://www.jcp.or.jp>
日本共産党市議団ホームページ <http://jcp-tomakomai-shigidan.com/>
eメールアドレス commun@rose.ocn.ne.jp

核兵器廃絶と核兵器禁止条約への日本の参加、被爆者援護を訴え、被爆地広島・長崎をめざして歩く「2026年原水爆禁止国民平和大行進」の苦小牧集会在5月28日、若草町の中央公園で開かれました。10日に礼文島を出発した全国幹線コースと、25日にえりも町を出発した道内網の目コースが合流し、「たすき」が引き継がれました。市民ら50人が参加し、世界平和をめざし、大軍拡・改憲を許さない、非核三原則の見直し反対を訴えました。

実行委員会の乳井有史・苦小牧原水協理事長は、「世界では国際法に従う気がなく、核兵器を使うと言う倫理観も

ない指導者が現れている。市民が厳しい目を向けていく必要があります」と強調。NP T(核不拡散条約)再検討会議は、3度目もまとまらず、成果文書の採択ができてません。「核兵器廃絶に背をむける核兵器国の姿勢が厳しく問われます。それでも私たちは、世界の願い、希望を確信する必要があります。戦争するな、核兵器を廃絶しようという、世界の主流の流れに与していきましょう」と呼びかけました。

「高市首相は、非核三原則をなし崩し的に変えようとしています。絶対壊すなどとする陳情を6月市議会に提出する予定です。苦小牧市は非核平和都市条例を制定しており、議会に意思を表明してもらいたいと思います」と訴えました。



礼文島から幹線コースを歩く「通し行進者」の高橋晃・森町原水協会長は、「行く先々で、各地の首長やいろいろな人から核兵器はダメだと思いを聞いてきています。私の力は小さいですが、核兵器廃絶のために努力したい」と決意をのべました。

集会は「わたぼうし」有志の「戦争をさせない大人たち」

北海道新幹線札幌延伸工事にともなう談合疑惑をめぐり、日本共産党北海道委員会、道議団、札幌市議団は5月26日、札幌市で会見し、声明を発表しました。島山和也道副委員長(元衆院議員)、真下紀子、丸山はるみ両道議が出席しました。



同疑惑は、札幌延伸工事のレール敷設をめぐり、建設会社などが受注調整を行ったとされるものです。

道新幹線工事中断し 徹底究明を 島山氏ら 談合疑惑で声明と要請

声明は、疑惑の徹底究明とその間の工事の一時中断、道民生活を支える公共交通機関として在来線の維持・存続を求め、工事の凍結と、中止も含む全道的な議論をよびかけています。

島山氏は、事業費は3兆5千億円とも試算され、財務省から「中止すべき水準」との見解が示され、道民負担増への疑惑は「道民の信頼を裏切るもの」と強調。血税による事業を担う自覚と資格が問われる事業だと、厳しく批判しました。

真下氏は、「談合は経済犯罪である」と指摘し、札幌開業まで税金がつき込まれ続ける不正の構図を厳しく見直す必要があると訴えました。丸山氏は、入札価格が上がり、負担は地元自治体や住民に及ぶとし、「なんのためか、誰のための新幹線延伸工事なのか」が厳しく問われていると指摘。住民のための公共交通のあり方を議論する必要があるとのべました。

行く人たちに呼びかけました。翌29日、行進者の高橋さんは、乳井理事長、原啓司副理事長(苦小牧市議)、新婦人の会の藤間寿美さんとともに苦小牧市役所を訪れ、市長や教育長、議長らと懇談し、署名を要請しました。午後には、「たすき」は白老町に引き継がれました。

◆鉄道・運輸機構に 疑惑解明し全容を明らかに 島山和也道副委員長らは29日、道新幹線延伸の「談合疑惑」について鉄道・運輸機構、JR北海道、国土交通省道運輸局に要請を行いました。官製談合防止法の対象であり、発注者の鉄道・運輸機構には、▼「談合疑惑」の徹底究明と解明されるまでの間の工事中断 ▼全容と再発防止策を道民に明らかにすることを要請。機構側は、「必要な調査に協力しつつ、一日も早い完成・開業を目指す努力を続ける」と開き直りました。島山氏は、事業費膨張、有害残土問題、工事現場での死亡事故など、これまでに多くの課題が噴出してきたなかで起きた談合疑惑だと指摘。「道民の宿願を裏切る行為であり、全容解明なく工事を続けるのか」と厳しく批判しました。

原水禁平和大行進で苦小牧集會

戦争より平和の準備を

戦争するな核兵器廃絶 世界に轟かせよう

核兵器禁止条約の批准を 大軍拡反対！ 外交で平和を 日本共産党

国民皆保険制度の理念逸脱

改定健康保険法が成立 患者に負担増

医師が処方する医療用医薬品のうち市販薬と同等の効能をもつ「OTC類似薬」の患者負担増となる改定健康保険法が5月29日、参院本会議で、自民党、日本維新の会、国民民主党、参政党、日本保守党、チームみらいなどの賛成多数で可決、成立しました。日本共産党、立憲民主党、公明党、れいわ新選組、沖縄の風、社



市議会に臨む共産党苦小牧市議団

6月市議会11日招集

一般質問に共産党4議員登壇
苦小牧市議会の6月定例会が11日招集され、会期は19日までの予定です。一般質問には、日本共産党苦小牧市議団は、小野寺幸恵、富岡隆、原啓司、森本健太の4議員が登壇。イラン情勢に関わる生活支援や医療・介護、平和、教育と暮らしの問題などをたずねます。
市議団では、市民のみなさんの傍聴を呼びかけています。

- ◎6月10日 陳情締切
- 6月11日～16日 一般質問
- 6月17日 常任委員会
- 6月18日 特別委員会
- 6月19日 残余議案審議

C類似薬のうち、77成分1100品目の薬剤費の25%を保険給付外とすることを狙っています。現役世代の保険料負担軽減のためといいますが、見直しによる保険料軽減効果は月33円にすぎません。一方、窓口負担が3割の患者の場合、薬剤費の自己負担は約1・6倍に増えます。花粉症や慢性疾患、がんや難病で長期療養を必要とする患者には重い負担が強いとされます。負担の重さによる受診控えや治療の中断、薬の節約などで患者の命、健康、生活を脅かす恐れがあります。

国会審議の最大の焦点は、OTC類似薬の患者負担増でした。同法は、薬剤費など療養の一部を保険外として患者に別途負担を押しつける仕組みである「一部保険外療用」を創設。医師が必要と判断して処方した医薬品を保険給付外とするもので、「必要かつ適切な医療は基本的に保険診療により確保する」という国民皆保険制度の理念から大きく逸脱する重大な改悪です。政府はこの仕組みをもとに、2027年3月からOTC

生業と暮らしを守るために
消費税減税
インボイス廃止
日本共産党

また改定法では、今年度予算で8月から段階的な患者負担増が決まっている高額療養費制度の見直しについて、長期療養者の家計への影響を適切に考慮する旨を明記していました。しかし厚労省が制度見直しを議論した専門委員会では、収入の変動や教育費の家計への影響を検討してはいるが、負担増の8月強行は許されません。

自衛隊病院の病床大幅増へ 南西諸島の戦闘想定 苦小牧10床削減

防衛省は南西諸島での激しい戦闘を想定し、自衛隊那覇病院で有事には病床を4倍に増やすなど、全国の主要な自衛隊病院で病床を大幅に増やす計画です。計画は、実際に多数の自衛官が死傷することを前提にした戦争準備が着実に進んでいることを示しています。

自衛隊那覇病院では、50床から有事には200床にまで拡張できるようにするため、病床の建て替えを計画。麻酔科と精神科も新設し、重傷者を県外に搬送するための麻酔や、過酷な戦場でPTSDを発症した隊員への対処が目的とみられます。

赤旗日刊紙を友として
月3497円
購読をお勧めします

一方政府は、国民向けの入院病床の削減を進め、全国で約6万床の削減を見込んでいます。削減には1床410万円の支給も実施しています。苦小牧市立病院は、昨年9月、10床の削減(378床から368床)への条例改正をしています。



プレミアム付商品券 その問題点

こんにちは 小野寺ゆきえです
1冊1万円分の商品券が5千円で購入できる。お徳感が大きく、喜んでくださったと思っている方は多いと思います。しかし、私たちはこの仕組みに疑問を呈してきました。

プレミアム付商品券は、物価高騰の支援策としての国の経済対策予算をつかっています。物価高騰支援であれば、全市民への現金給付をすべきだと主張してきました。5千円が用意できない市民は、商品券を買うことができません。公平性に欠けるからです。厳しい暮らしをしているからこそ、恩恵がないのがプレミアム付商品券だと言えます。

さらに公平性に欠けることが発生しています。1人暮らしの方に、1冊しか買えない世帯と2冊買えた世帯があります。2人世帯に3冊買えた世帯もあります。

最終的に市が用意した商品券が余れば、再び抽選することになり、2冊買えた世帯も、また当たる可能性があります。公平性に欠けると感じます。

こんなことも発生。商品券を申し込んだ場合、市から「引換券」が届き、銀行で購入できる仕組みですが、引換券が届かなかったケースも。郵便局の手違いか本人のミスで捨てたとしても、市は「再発行できない」と言います。不幸な事案です。

様々な不具合が発生する商品券よりも、現金給付のほうが良かったと言えます。次回同様の経済対策があった場合は、現金給付を求めたいと思います。商品券の作成費や郵送料の節約にもなります。

小野寺幸恵(おののら・ゆきえ) 日本共産党苦小牧市議会議員・市議団長



平和大行進で核兵器廃絶訴える(5月28日)